

編集室から

春休みを向かえ、卒業旅行を含めて訪れる人が増えている兼六園では、梅の時期から、今度は木々が桜を咲かせる時期を静かに待っているようです。加えて、大学の多い市内では卒業生が後にした街に、新生が保護者の方を伴って新生活の準備をしている光景を見かけます。

毎年、感じる出会いと別れの季節「春」ですが、今年は我が家にも「もう一つの出会いと別れ」が訪れました。我が家の末っ子長女に電撃的な結婚が決まり、この5月に式を挙げることになりました。一方で、娘の仕事先の関係により、一足先、卯月の声を聞いたとたん、嫁ぎ先の近所に引越し、新しい職場に勤務しながら、式の準備を整えるようです。

私に似たのか、何でも自分で決めて進めていく性格は、それはそれで頼もしく、自立性があるって良いと思いますが、さまざまな準備に昔と違ってほとんど関わる事が無く、どこか「置いてけぼり」を喰らっているような、そんな心境になるのは、「娘を嫁に出す父親」だからなのでしょう。

能登の自宅から、他の街へ進学・就職して帰って来そうに無い長男・次男を尻目に、卒業後唯一、自宅に戻って通勤していた娘が出て行くと、一段と家族が減り、家が静かになります。

自然に囲まれ、生活環境としては抜群で、各地に出かけるにも空港・新幹線が近く比較的便利な地域ですが、それでもこうやって人が減っていく現状を前にすると、地域の維持・存続の行く末が観えにくくあります。

地域を俯瞰的に観、再生・創生へのお手伝いを職とする身の足元での将来と現実。そのバランスと方向性はいかにあるのか…。

柔らかな日差しが眩しい季節の中で、想いを巡らせています。(は)



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00～23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラーザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2018/04
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2018/04
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

卯 月



福岡県宮地嶽神社にて
by hama

最近の医学の進歩によって、ヒトの腸と腸に棲む細菌とが協同して大切な何かをしているの、だろ、うという事は判ってきました。そのことに対する一般的な興味は、大きく二つに分かれるように見えます。一つ目は腸内細菌がどのような病気に関連しているのか、もう一つは腸内細菌を変え、ために何を食べたら良いのか、です。



前回お話ししたように、腸内細菌は相互に依存関係を持ちながら少なくともも千種類以上が共存しています。そのことを意識して、これからは、腸内で調和を保って咲き乱れるお花畑」という意味で腸内フローラという言葉を使うことにします。腸内フローラが有効な治療法として現代医学に初めて認められたのは、偽膜性腸炎に対する便移植です。偽膜性腸炎は、強力な抗生物質を使ったことで元々の腸内フローラが破壊され、クロストリジウム・デフィシルという有害な細菌が異常増殖して下痢・下血・高熱をきたす病気で、それまではクロストリジウムを殺菌するため更に抗生物質を投与していたのですが、一度こじれると副作用が強く出たり再発を繰り返したりしていました。そこで健康な人の便から腸内フローラを貰って腸内に注入したところ、劇的に有効だったわけです。少し詳しく言つと、便を生理食塩水に溶かして不純物を取り除いた上澄み液を、胃の奥まで挿入したチューブまたは肛門から注入します。最近では、胃酸に耐えるカプセルに腸内フローラを詰め込んで飲み込む移植法も開発されているようです。

濱のつばき 『縁のちから』

数年来、お手伝いをさせて頂いた「道の駅のと千里浜」(羽咋市)の事業開発支援と、特産品開発支援。この三月末で同駅開業後初の決算となったが、地元議会などに提出された事前の予想を遙かに上回り、開業からわずか九ヶ月で二億円を超える売り上げが既に確定している。来場頂いたお客様をはじめ、関係各位のご努力の賜物であり、改めて敬意を表させて頂きたいと思う。

数年にわたる本事業の後半には、「ふるさと財団(地域総合整備財団)」からの地域再生マネージャー制度を活用させて頂き、我々支援専門家も存分に活動することができた。この場を借りて深く感謝申し上げます。

長年、石川県内を始めとして全国各地の現場支援のお手伝いをさせて頂いてきたが、ふるさと財団さんとの縁を頂いたのは初めてだった。参加させて頂いた同財団主催の研修会や成果発表会には、

そして腸内フローラの驚くべき可能性が示されたのは、肥満ネズミと痩せネズミを使った実験でした。ネズミは実験室の中で飼つことで、腸内を無菌(余談ですが無菌ネズミは何故か長寿なのだそうです...)にすることが出来ます。その無菌ネズミに肥満ネズミの便からとった腸内フローラを移植したところ、なんと無菌ネズミが肥満してしまつたのです。そして痩せネズミでも、同様に痩せを便で移植することができました。ヒトの場合は腸内フローラだけで全て決まるとは考えられませんが、少なくとも今まで「体質」という一言で片付けられ諦められていたことが何とかなるのかもしれないと思わせた瞬間でした。

その後も腸内フローラが関わる病気として、大腸癌・潰瘍性大腸炎やクローン病・糖尿病・アレルギー性疾患・うつ病や自閉症など、話は広がる一方です。でも、まだまだ注意が必要です。腸内フローラの全体像が見えてくるとは、とうてい言えないからです。腸内細菌の研究が最近まで進まなかつたのは、大腸に棲む嫌気性菌の培養が難しく菌の同定が出来なかつたからです。それがORSリボソームRNAという遺伝子の違いを利用した分類が可能になって、飛躍的な進歩につながりました。でもそれは「界・門・綱・目・科・属・種」という生物学の分類でいうと、上から二つ目の「門」のレベルまで解明されたにすぎません。ちなみに我々ホモ・サピエンスは「動物界・脊索動物門・哺乳綱・サル目...」です。「門」レベルで論じられてしまつと、背骨があるというだけでヒトもメダカもトカゲも一緒くたになってしまいます。



【プロフィール】
「いがき としお」(金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった...。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又クヌクしています。)

全国のツワモノの方々が集い、知己の方も居られ、大変刺激的だった。

このような縁から本年度より、新たに私も同財団事業の一つである地域再生マネージャーにご登録を頂けることとなった。今後は、より一層責の重いご相談に応じさせて頂くことになるかも知れないが、精進を重ねてまいりたいと、身を引き締めている。

翻つて、足元では昨年、丈母が手術を受けた。それ自体は無事成功だったが、今までのような過酷な農作業は控えた方が良くいので、いよいよ米作を本格的に担当する春を迎えることになった。

地元では一次産業に従事し、志事では全国を駆け、時には海外にも研鑽に赴く...

幼少の頃から、そんなライフスタイルを思い描いていたが、還暦を目前にしていよいよビジョンがより明確になり始めたと感じている。

これまでのすべてのご縁の積み重なりのお蔭であり、ほんとうに有難いことだとつくづく感じている。

福井県において、実際に体験したことや周囲からの伝聞、そして様々なメディアからの情報を元に、現時点における論点の列举を試みた。本号では、子供・教育、テクノロジー、メディア・情報、医療・福祉、企業、行政について記す。視点の多様性とスピードを重視し、筆者の責任において、十分な裏付けがないまま言語化、あるいは結論を曖昧にしていることに留意されたい。建設的な批判を頂ければ幸いである。

H.子供・教育
登下校の安全確保、歩道除雪の現実
大学・高校入試等の行事のタイミング
雪遊びの楽しさと危険、環境学習等

I.テクノロジー
精緻すぎる天気予報とその活用状況
車の最先端ABSやTCSの普及と理解
ロボットやドローンによる未来の除雪
除雪システムの進化とGPSやAIの活用
Googleマップの凄さと補完情報
雪国自動運転の実現は遥かに遠いのか

J.メディア・情報
地方メディアの当事者目線による編集
SNSの玉石混交、もっとできるはず
マスメディアの重要性、活用と限界
移動中でもネットでつながる安心感
災害時における自治体広報のあり方

K.医療・福祉
同時多発する緊急事態等の優先順位
通所・在宅福祉機能のサービス低下
障害者等の災害弱者への配慮と支援
緊急車両等のラストワンマイル問題
薬や輸血用血液等の資材は概ね充足
転倒、転落増による一時的病床不足
外国人や観光客等への対策と気配り

L.企業
繰り返される農作物被害への対処法
企業による被災者支援や地域貢献
サプライチェーン寸断とBCPの検証
個社と社会全体に関する合成の誤謬
企業ができたことできなかったこと

M.行政
計画と準備と初動は万全だったのか
インテリジェンスな対応だったか
激甚被災者でもある公務員の実情
自治体同士の連携、融通、派遣
近畿地方整備局管轄による弊害の有無
指揮命令システムとリーダーシップの検証
鳥・虫・魚の目で対応できていたか
激甚災害指定と復興に向けた歩み
平時からの民とのコミュニケーション
三〇豪雪の記録、総括と検証、伝承等

日本全体の少子高齢化により、すでに人口は縮小をしはじめ都内の住宅街でも、私我能登に住んでいた1980年代のように、体を支えるためのバギーを押す高齢者の方々を数多く見るようになりました。能登と東京では30年以上の人口構造変化のタイムラグがあることにも驚きですが...。飲食事業に携わる者として、業界の大きなテーマになっているのが、日本の食文化をつくってきた老舗をどう守っていくか?なんです。先日も神保町にあった創業60年の天ぷらとトンカツの名店が閉店し、業界に大きな波紋を呼びました。廃業となった最大の要因は、担い手がいなかったことようです。飲食業界は

- ・労働時間が長い 12時間労働は当たり前。
- ・休日が少ない 週1休みはいいほう。ブラックなところは1か月に2日程度。300時間労働/月という話もよく聞きます。

- ・賃金が安い 上記のように働いて月額手取りで20万円程度という感じでしょうか。であるため、今の若者に対して魅力を提供できておりません。ITや金融といった今の花形産業と比較すると、年収ベースで1/3にも満たないことも。これらを引き起こす原因が、以前にもここで書かせていただいた『消費者にはびこる安さへの過剰期待』でもあるのですが、今回は論点が異なりますので詳細は割愛いたします。

しかし、老舗の味を守るための障害は人材不足だけではありません。実は一番の弊害となりうるのが、「賃貸契約書上の事業継承に関する文言」にあります。特に、老舗と呼ばれる店の多くは昭和の時代に物件の賃貸契約を結んでいる事が多いかと思われます。古い賃貸契約にはよく以下のような文言が記載されていることがあります。

- ・株式譲渡は認めない
- ・脱法的な手法による賃貸借権の譲渡は認めない
- ・株主構成の変更にはオーナーの許可を必要とする

というものです。

私がM&Aをした恵比寿の創業40年の蕎麦屋においても同様の契約書文言があり、株式や資産を購入してから色々と揉めたことがあります。しかし、今後第三者による増資・株式譲渡などの手法により、日本の食文化を守っていくという現代のトレンドからすると間違いなく、この契約書文言が大きな障害となってきます。

昨年も、この事業継承による株式買収で買収側とビルオーナー側の係争がありました。和解内容としては、新たに賃貸契約を結びなおすということで決着したようですが事業を買う側としては、

- ・株式買収資金
- ・営業資産の購入資金 のれんやブランド、店舗設備など

の支払いで事業継承できるはずが、そこから更に賃貸契約費用までかかるとなると結局、自分たちの儲かるスキームを新規契約でやったほうが投資対効果としてはいいという話になります。他の業界では当たり前の通念となっていることが、まだ飲食業においては特異なものとして受け取られてしまいます。

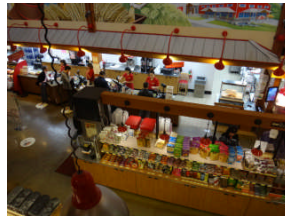
群馬県や東京の下町で最近自治体が主導して「絶滅飯を守る!」という活動がされ、若手後継者とのマッチングなどに取り組んでいらっしゃるようです。ここでどのように、賃貸契約などの問題が解決されていくのかを、私としては興味深く見守ってまいります。

『富士の国から ~大魔神のたび~』ポートランドへの旅 2017.9.29~10.5
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

spin ランドリーラウンジというコインランドリーがある。倉庫を改造し、スウェーデン製の見るからに強力な洗濯機が並ぶ。ここにバーとカフェを併設した。当然、洗濯と乾燥には時間がかかるから、具合がいい。更にカフェのスクリーンに映し出される地元バスケットチームのプレイに一喜一憂する何て言うこともできる。



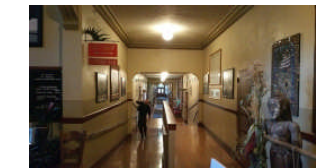
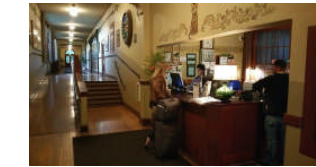
今回は農園を案内された。オーガニックを標榜する農園だ。草も適当に居存している。農園に来てもらうための直販場、トウモロコシ畑の迷路、生産の場にとどめないところがイケテル。割と都市に近いことで、消費する場の近くで生産することで地産地消が容易になり、作り手と買い手がダイレクトに接するので安心感も生まれている。ポートランドにファーマーズマーケットや「Farm to Table」のレストランが多いのは、採れたての食材が手に入りやすいことがある。加えてポートランド市の施策が都市との農業エリアの線引きがしっかりしていることで、営農のしやすさがある。日本で言うところの線引き制度が徹底されている。豊かな食、安心・安全な食



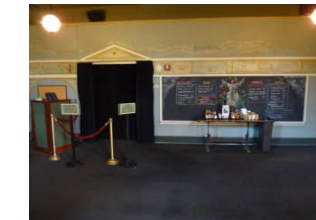
が目前にあることがポートランドの人気に拍車をかけている。



ポートランドの旅の最後の日の宿は、1915年に開校し75年に閉校したケネディ小学校を大きくリノベーションしたホテルだった。ホテル以外にもレストラン、バー、何せ部屋数は多いから、喫煙できるバーと禁煙バーは別があり、さらにボイラーバーと称して、内装に配管や工具を組み込んでいる。ビール醸造所もある。体育館をシアターもある。レストラン入口のメニューを書いた黒板アートも面白い。地域の商業コミュニティスペースと言ってよいだろう。ただ、泊まった客室は1つの教室を2つに分け、これに水回りとなると無理がある。ホテルのような快適空間というわけにはいかない。学校に泊まってみたいという強い意思が必要と思う。このような施設は日本でも大いに受けそうである。



6年前に比べ、ホームレスの姿が目立つ。4000人にも上るとのこと。施しをする優しさが多いということであるし、その気運ができあがったまちづくりにあると思う。彼らを追い出すことなく、暮らしをサポートし市民として馴染ませることができるとは高いハードルだ。ポートランドには2つのポリシーがある。「サスティナビリティ：持続可能で人と地球に優しい暮らし方」と「ウィアード：個性や自分らしさを大切にする」ことだ。これは何もポートランドに限ったことではなく、どこでも目指すべき姿と思う。



小集団の横並びの団結の窮屈さから、脱皮してもらいたいものだと願いを込めてポートランドの旅行記を閉じさせていただきます。お付き合いいただき、ありがとうございました。（おわり）